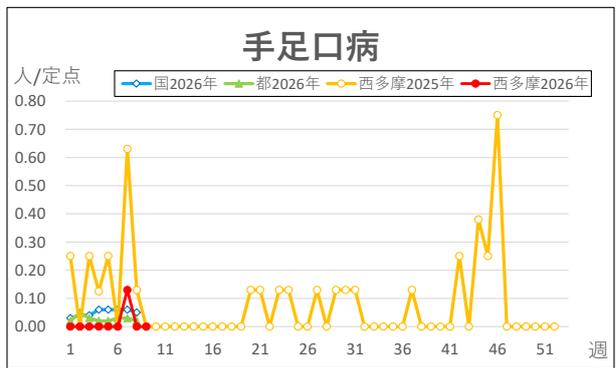
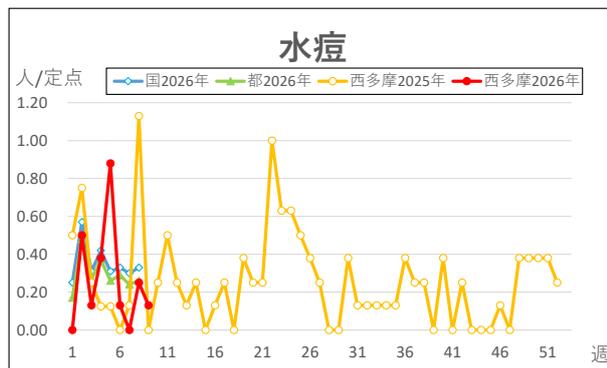
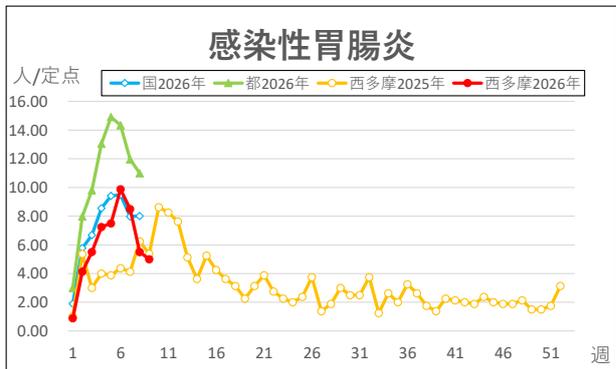
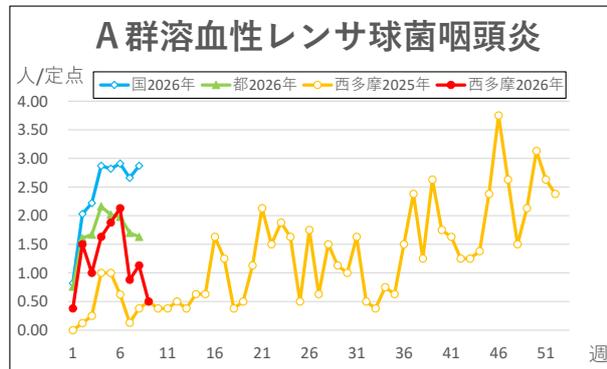
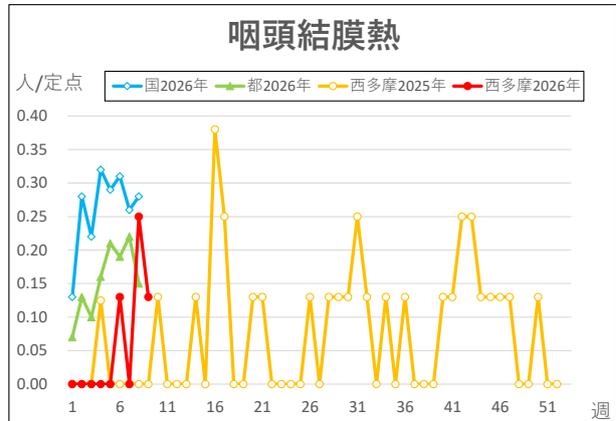
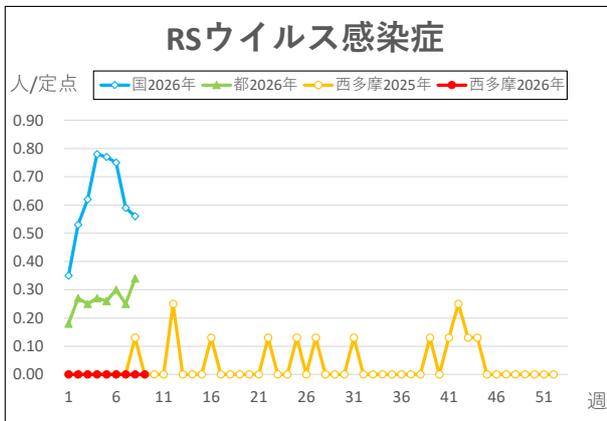
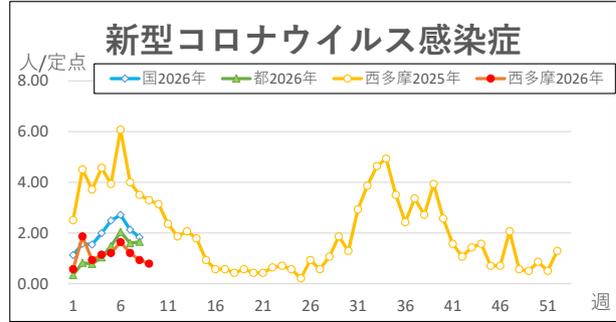
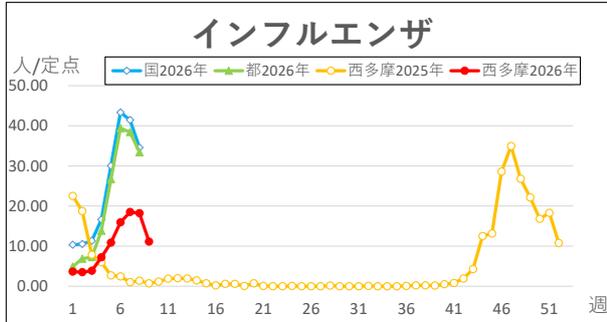


西多摩保健所感染症週報

東京都西多摩保健所
Tel 0428-22-6141



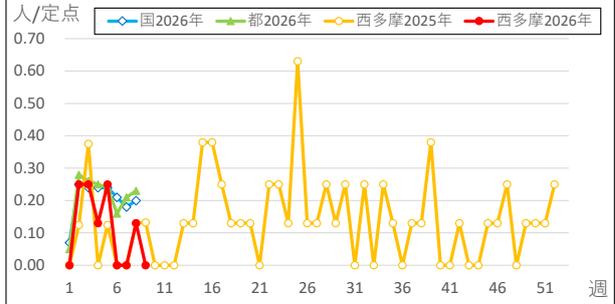
- *管内の発生動向及び定点把握対象疾患*** () は内訳又は前週値
- 全数届出の疾患は、急性脳炎1件(70代男性)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(70代男性)、梅毒1件(60代男性)の報告がありました。
 - 定点報告は、前週より増加した感染症はありませんでした。
- *管内の感染症集団発生状況*** () は内訳
- インフルエンザ7件(保育所)、新型コロナウイルス感染症1件(高齢者通所施設)、疥癬1件(医療機関)の報告がありました。



伝染性紅斑



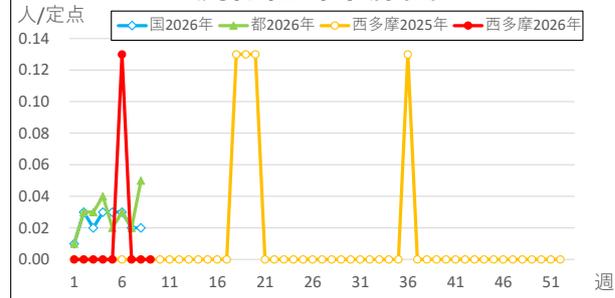
突発性発しん



ヘルパンギーナ



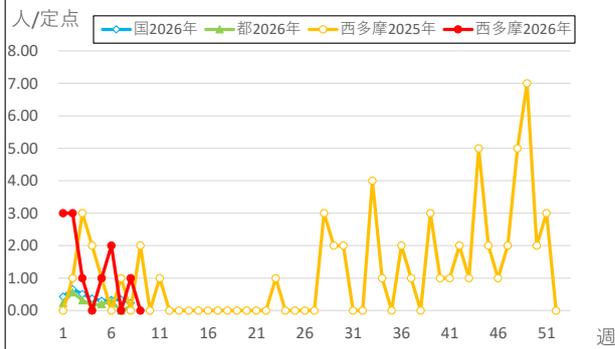
流行性耳下腺炎



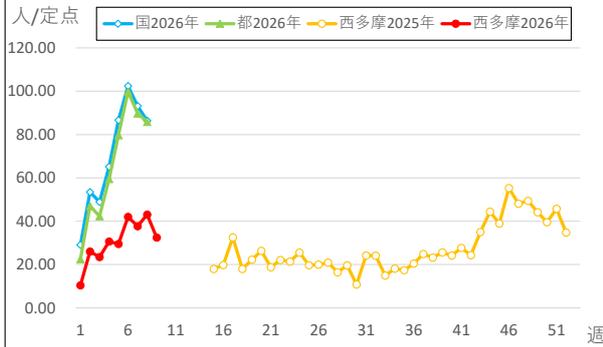
流行性角結膜炎



マイコプラズマ肺炎



急性呼吸器感染症 (ARI)

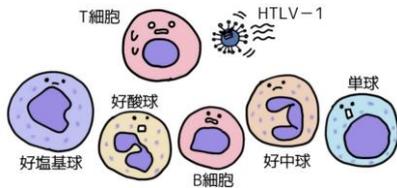


今週のトピックス

～成人T細胞性白血病～

HTLV-1は、Human T-cell Leukemia Virus type 1（ヒトT細胞白血病ウイルス1型）の略称で、ヒトに感染するレトロウイルスの一つです。

同じレトロウイルスでは、エイズの原因となるHIV（ヒト免疫不全ウイルス）が有名ですが、HTLV-1とHIVは全く別のウイルスです。



HTLV-1は、血液中の白血球の一つであるリンパ球のうちT細胞に感染します。

どのような病気ですか

HTLV-1は感染していても特に症状はありません。HTLV-1感染者の約95%は、生涯にわたりHTLV-1感染が原因となって起こる病気を発症せず、感染していない人と同じように生活することができます。無症状のままHTLV-1というウイルスを持続的に保有している人のことを「HTLV-1キャリア」とよびます。

但し、HTLV-1キャリアの一部の人は、成人T細胞白血病・リンパ腫（ATL）を発症します。



<成人T細胞白血病・リンパ腫（ATL）が疑われる症状>

- ・体のあちこちのリンパ節が腫れる
- ・皮膚の赤い発疹や盛り上がった発疹がなかなか治らない
- ・強い倦怠感や高熱が何日も続く

どのようにうつりますか？

HTLV-1の感染は、HTLV-1感染者の血液、母乳、精液等に含まれるウイルスに感染した細胞が生きたままの状態で大いに相手の体内に入り込むことで起こります。主に母乳を介した母子感染と、性的接触による感染等があります。

どのように治療・予防できますか？

感染力は弱く、くしゃみや咳、握手、キス、お風呂やプール、食器やトイレの共用など、日常生活の中ではうつりません。

血液が付着した歯ブラシやかみそりの共用、消毒が不十分な器具を使用してピアスの穴をあけること、不特定多数とのコンドームをしない性交渉、刺青（タトゥー）を入れることなどは、感染の可能性があり注意が必要です。

HTLV-1キャリアに対しては、HTLV-1ウイルスが体内で増殖することを抑える薬は今のところ使える状況にはありません。ATLに対しては、抗がん剤による化学療法などの薬物療法や造血幹細胞移植による治療が行われます。

また、妊婦健診でHTLV-1抗体検査が実施されていますので、妊婦健診を受けることが大切です。

ほっとらいぶHTLV-1情報ポータルサイト 「HTLV-1について」

https://htlv1.jp/htlv1_introduction/

厚生労働省 リーフレット「知ってるだけで味方になれる」

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou29/dl/htlv-3_web.pdf



Column～感染症の歴史②～

白衣の天使『ナイチンゲール』は、近代看護に多大なる影響を与えました。

クリミア戦争の際、野戦病院にて看護師長として赴き、数多くの傷ついた戦士たちの支えとなりました。

現地でクリミア熱（後にブルセラ症と命名）に罹患し、その後死去まで約50年間、倦怠感や麻痺症状に悩まされました。

ブルセラ症とは、Brucella属菌による動物由来の感染症で、牛、豚、ヤギ、ネズミなどからヒトへ感染するとされています。

クリミア熱は当時の衛生状態の悪い病院内にて流行したとの見解が強くなっています。

ナイチンゲールの伝記からも、今日の優れた衛生環境のありがたさが感じられます。



直近8週間の西多摩保健所管内定点医療機関報告数（定点当たり）

	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	1週目からの累計
インフルエンザ	49 (3.50)	54 (3.86)	101 (7.21)	152 (10.86)	223 (15.93)	259 (18.50)	255 (18.21)	156 (11.14)	1,300
新型コロナウイルス感染症	26 (1.86)	13 (0.93)	16 (1.14)	17 (1.21)	23 (1.64)	17 (1.21)	13 (0.93)	11 (0.79)	144
RSウイルス感染症	0 (0.00)	0							
咽頭結膜熱	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.13)	0 (0.00)	2 (0.25)	1 (0.13)	4
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12 (1.50)	8 (1.00)	13 (1.63)	15 (1.88)	17 (2.13)	7 (0.88)	9 (1.13)	4 (0.50)	88
感染性胃腸炎	33 (4.13)	44 (5.50)	58 (7.25)	60 (7.50)	79 (9.88)	68 (8.50)	44 (5.50)	40 (5.00)	433
水痘（みずぼうそう）	4 (0.50)	1 (0.13)	3 (0.38)	7 (0.88)	1 (0.13)	0 (0.00)	2 (0.25)	1 (0.13)	19
手足口病	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.13)	0 (0.00)	0 (0.00)	1
伝染性紅斑	1 (0.13)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.13)	0 (0.00)	2
突発性発しん	2 (0.25)	2 (0.25)	1 (0.13)	2 (0.25)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.13)	0 (0.00)	8
ヘルパンギーナ	0 (0.00)	0							
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.13)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	1
流行性角結膜炎	0 (0.00)	0							
マイコプラズマ肺炎	3 (3.00)	1 (1.00)	0 (0.00)	1 (1.00)	2 (2.00)	0 (0.00)	1 (1.00)	0 (0.00)	11
急性呼吸器感染症（ARI）	364 (26.00)	328 (23.43)	429 (30.64)	413 (29.50)	588 (42.00)	528 (37.71)	603 (43.07)	454 (32.43)	3,817

○グラフは、5類定点把握対象疾患についての推移を表しています。グラフ縦軸の目盛は定点あたりの患者報告数です。

○管内定点医療機関数は、小児科定点8、内科定点6、眼科定点1、基幹定点1となっています。

○毎週の患者報告数は、管内の定点医療機関から毎週月曜日に報告を受け、週報として木曜日に発行いたします。

○データの出典元は、下記のとおりです。国及び都のデータは1週間遅れで掲載しております。

〈出典〉東京都、西多摩保健所のデータ：東京都感染症情報センター <https://idsc.tmph.metro.tokyo.lg.jp/>

国のデータ：国立健康危機管理研究機構（JIHS） <https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/index.html>